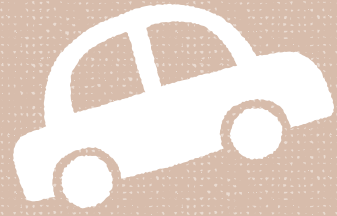
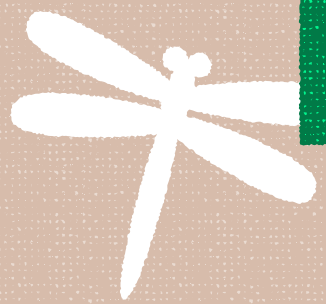


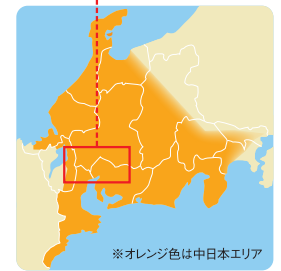
東海環状道



自然と  
人をつなぐ  
道づくり



これからも「生物多様性に配慮した取り組み」を  
続けていきます



中日本高速道路株式会社  
 名古屋市中区錦 2-18-19  
 三井住友銀行名古屋ビル 〒460-0003  
 TEL:052-222-1620  
<http://www.c-nexco.co.jp>



東海環状自動車道は、名古屋市の周辺三〇〜四〇キロ圏に位置する愛知・岐阜・三重3県の諸都市を環状に連絡し、新東名・新名神、東名・名神や中央道・東海北陸道等と広域的なネットワークを形成します。東海環状道は、東海地方の自然環境豊かな区域を通過するため、生物多様性に配慮した様々な取り組みを実施しました。ここでは、その組み合わせの一部を紹介します。

## 1 積極的な樹林化

地球温暖化の抑制や生物多様性保全のため、周辺の自然環境を調査し、地域に適した樹木を用いて、高速道路のり面を積極的に樹林化しています。



樹林化(豊田市)

## 2 「地域性苗木」の活用

建設現場では、周辺に自生する樹木の種子をあらかじめ採取して、その種子から育てた「地域性苗木」を植えています。この地域性苗木は、現地に自生する樹種を植えることから、他の地域の植物との交雑を避け、地域が本来持っている遺伝子レベルでの生物多様性を保全することができます。

東海環状道では、約千本の地域性苗木を植栽しました。

種子採取の様子



地域性苗木(育成状況)

## 3 シデコブシの保全



シデコブシ

建設地内にシデコブシの群生地が見つかったため、一部の道路構造を変更するとともに、建設地にかかるものは移植しました。

シデコブシは、環境省の絶滅危惧種に指定され、東海地方のみに自生する貴重な植物です。移植先では毎年、開花が確認されています。

## 4 森林表土の活用

森林表土には、豊かな森林が百年以上かけて作り上げた土壌の中に、そこに自生する樹木の種子が含まれています。通常それらは道路本体として埋められてしましますが、その森林表土を道路のり面に



森林表土活用による森林復元

吹き付け、その中に含まれる種子で森林の復元をはかりました。

## 5 現場発生材の有効活用

建設工事では土や石、木材など様々なものが発生します。通常それらは処分してしましますが、それらの発生材を有効に活用しました。

道路建設で発生した石は、サービスエリアや中央分離帯等で修景用の材料として活用しました。



石を使った修景(鞍ヶ池トンネル北坑口付近)

## 6 「フクロウ谷」の保存

豊田東JCTでは、建設工事の前に実施した動植物の調査で、建設地内にフクロウが生息する谷間が確認されました。建設当初は、その谷を埋めて道路を建設する計画でしたが、道路構造を擁壁に変更して改変面積を最小化することで、谷を保存しました。また、壁面にフクロウが棲みやすい空間を作り、「フクロウ谷」として保存しています。

今では、地元の専門家と共に、「フクロウ谷」の生息環境を保存しています。これからも、大切に見守っていきます。



豊田東JCTの「フクロウ谷」

